

90 ヒット曲を音楽的要素から分析する

～ 2024 年 youtube 総再生数を基に ～

90th / Analysis of Hit Songs by Musical Constituents

~based on the total views chart, at youtube, in 2024~

要旨 私達は、音楽をもっと社会に普及させるべく、2024年にヒットした曲を音楽的要素から分析した。研究1ではコード進行について、先行研究で明らかにされた傾向が2024年にも見られることを確認した。研究2では、その他の音楽的要素について新たに傾向を見出した。これらの傾向は、現代の社会情勢と親密に関わっていると私達は考察する。

1 研究背景と研究目的・意義

1.1 研究背景

音楽には、人を幸せにする不思議な力があると思う。というのも、情報技術が高度に発達した現代で、音楽は孤独感を拭うコミュニケーションツールとなり、また、社会の辛苦から身を守る心の拠り所となると私たちは信じているからだ。そこで、そんな音楽の発展に寄与すべく、特に影響力の強いヒット曲について、それらの共通点から論理的に分析することにした。この研究では、先行研究を参考にしながら、西暦2024年（以後表記する年号は全て西暦とする）のヒット曲を対象とした研究を行う。なお、“2024年のヒット曲”を“2024年のyoutubeでの総再生数ランキングTop100”と定義する。その“2024年のヒット曲”における音楽的な共通点の模索を、研究におけるリサーチクエスションとする。研究1ではサビにおける「コード進行」という要素の共通点を、研究2ではそれ以外の音楽的要素の共通点を分析し、得た結果から2024年のヒット曲の傾向を探る。

1.2 リサーチクエスションと先行研究・事例

“2024年にヒットした曲には、音楽を構成する要素にどのような傾向があるか”
という問を、リサーチクエスションとして設ける。2024年以前でのヒット曲を分析した研究は
今まで数多く行われており、例えば「コード進行」についての研究によれば、

「4536 進行（王道進行）」 ，「6451 進行（小室進行）」 ，「4156 進行（ポップパンク進行）」 ，
「1451 進行（サイクル進行）」 ，「1456 進行」

といった進行が多く用いられる傾向がある。こういった傾向が近年でも見られるか、もし見られない
ならばどのような傾向にシフトしたのか、ということはこの研究で明らかにしたい。

1.3 研究の目的・意義

この研究の目的は、以下の通りである。近年のニーズに合ったヒット曲の共通点を発見することで、
音楽を作ることが幾分か容易になり、多くの人が音楽を作り、そして聞くことができるようになる。
音楽が、親しむ人が増えるということは、研究背景に述べたことから、より多くの人々が社会の
ストレスを軽減し活力を得、そして全体としての社会も活気づく。これが、研究の意義である。

1.4 仮説とその根拠

ヒット曲に共通する点が見られる要素には、(1)コード進行、(2)2番のサビの有無、(3)イントロの有無、
(4)アーティストの形態、などがあるのではないかと考えた。 (1)(2)(3)は、コード進行というものがほぼほぼ定型化
されていること、また、有無は「有」と「無」と2つにしか分けられないことから、ハッキリと共通点
が見つかると思われたため挙げた。(4)は、どのような形態のアーティストが求められるかは、社会情勢
と密接に結びついていそうだったので挙げた。

2 研究方法1 コード進行の研究

2.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

コード進行は主要な音楽要素のひとつであり、曲の展開に大きく関係する。多くのヒット曲がどんな進行をするかを計測し、2024年のヒット曲の全体的な傾向を考察したい。特に、2024年に限らず多く見られることが先行研究で明らかとされた、「4536進行（王道進行）」、「6451進行（小室進行）」、「4156進行（ポップパンク進行）」、「1451進行（サイクル進行）」、「1456進行」が2024年も多く現れるかどうかに着目する。

2.2 研究と分析方法

コード進行を調べるにあたり、GLNET社(株)の運営する“U-FRET”という、ギターのコードを検索することができるサイトを、本研究では利用した。具体的には、まずサビの歌詞の上を書いてあるC, Dといったコード（曲の当該部分を構成する、主要な和音）を書き出した。この際、ページで最初に表示されているものは原曲のキー（調）とは異なっている場合があるので、カポ・キーを原曲キーに整合する。その後、コードがそのキーのどのダイアトニックコードに対応しているかを、度数表記した。この手順により、曲ごとのキーによらず同じ尺度でコードを調べることができる。書き出しに用いたのはexcelで、基本的に一小節ごとに区切りながら表記した。表記したコード進行のなかで、どの進行が頻繁に使われるかを測定した。

	I	IIIm	IIIIm	IV	V	VIIm	VIIIm-5
キーC	C	Dm	Em	F	G	Am	Bm-5
キーD♭	D♭	E♭m	Fm	G♭	A♭	B♭m	Cm-5
キーD	D	Em	F#m	G	A	Bm	C#m-5
キーE♭	E♭	Fm	Gm	A♭	B♭	Cm	Dm-5
キーE	E	F#m	G#m	A	B	C#m	D#m-5
キーF	F	Gm	Am	B♭	C	Dm	Em-5
キーF#	F#	G#m	A#m	B	C#	D#m	E#m-5
キーG	G	Am	Bm	C	D	Em	F#m-5
キーA♭	A♭	B♭m	Cm	D♭	E♭	Fm	Gm-5
キーA	A	Bm	C#m	D	E	F#m	G#m-5
キーB♭	B♭	Cm	Dm	E♭	F	Gm	Am-5
キーB	B	C#m	D#m	E	F#	G#m	A#m-5

トニック サブドミナント ドミナント ※IIImはトニック・ドミナントどちらかで解釈される

三和音ダイアトニックコード表 引用：エルエミュージック

2.4 考察

先行研究にて提示されたコード進行は、2024年のヒット曲でも多く出現した。また、先行研究で提示されないながらも多く出現するようなコード進行は、見られなかった。これらの事柄から、2024年においても、先行研究に示された傾向は認められると判断できる。

3 研究方法2 コード進行と他の音楽的要素の分析

3.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

研究方法1を通して、最近のよく使われているコード進行を一通り調べることができた。だが、コード進行が曲に及ぼす影響が大きいといえど、他の要素を無視することはできない。なので、少し踏み出して他の音楽的要素について調べることとする。具体的に、

2番のサビの有無、イントロの有無、アーティストの形態

の三つについて調査し、2024年ヒット曲の傾向をより精細に把握する。

3.2 研究と分析方法

この研究では、2024年のYouTubeの曲ランキングのベスト50をベースにアーティストの分類を行い、また、2番のサビの有無と出だしのイントロの有無を調査する。

アーティストの分類については、歌手、バンド、アイドルの3つに分類をした。ここでの定義として、歌手は歌うことがメインのアーティスト、バンドは演奏がメインのアーティスト(ボーカルが演奏する“グループ”)、アイドルはダンスがメインのアーティストとした。これを調べることによって、現在音楽で何が重要視されているかを明確にしようと考えた。サビやイントロ(イントロとは、歌唱が入る前の、演奏のみの部分のことである)の有無については、近年それがない曲が多く見受けられていると感じたので調べることにした。分析方法は次の通りである。対象の曲を聴き、アーティストを歌手/バンド/アイドルで分類しExcelに結果を打ち込む。さらにその曲が、2サビ(2番のサビ、以降はこう表記する)を持つか、イントロを持つか、についても入力する。このような作業を、研究方法1と同様に繰り返す。

3.3 結果

アーティストの分類についての結果は

歌手→46%

バンド→48%

アイドル→6%

という結果となった。アイドルに分類される曲が極めて少なかつたため、それらの曲は2サビ・イントロの割合に含めないこととする。また、2サビと出だしのイントロの有無について、

歌手	:	2サビ	あり	→56.5%
			なし	→43.5%

イントロ	あり	→61%
	なし	→39%

バンド	:	2サビ	あり	→75%
			なし	→25%

イントロ	あり	→54%
	なし	→46%

全体	:	2サビ	あり	→68%
			なし	→32%

イントロ	あり	→60%
	なし	→40%

となった。最後に、歌手とバンドそれぞれの2サビとイントロ有無の関係について次の表にまとめた

	2サビあり	2サビなし	
歌手	56.50%	43.50%	差→小
バンド	75%	25%	差→大
	イントロあり	イントロなし	
歌手	60.90%	39.10%	差→大
バンド	54.20%	45.80%	差→小

3.4 考察

調査の結果、歌手とバンドは同じくらいの曲数がランキングに入っていることが分かった。また、2サビと出だしのイントロの有無についてはどちらもあるという場合が多かった。この二つがあるということは時間が長い曲が好まれている傾向にあると考えた。そして、歌手とバンドそれぞれの2サビとイントロ有無の関係をみると、

2サビあり → 歌手 < バンド

イントロあり → 歌手 > バンド

という傾向になっていた。つまり、歌うことがメインのアーティストである歌手を好む人はイントロを、演奏することがメインのアーティストであるバンドを好む人はサビを重視することが多いと考えられる。一曲の長さが長くなりすぎず、短くなりすぎないようにアーティストそれぞれで調整の仕方の違いが垣間見える結果となった。

4 結論と今後の展望

4.1 結論

結論としては、まずコード進行に関しては先行研究と似たような結果になったことをふまえると、傾向に変化は見られないということになった。これは音楽に進展がないということではなく、むしろ日本で流行る曲のフォーマットが完成された結果であるということを示していると考えられる。先行研究では、今回調べて一番多かった王道進行は聞く人に切ない印象を与えると書かれていた。この進行が日本で好まれているのは、少子高齢化や物価の高騰など、先の見えない世の中を生きる日本人の心情

に由来すると考える。つまり、コード進行を使いこなすことができれば、多くの人々の心情に寄り添った曲を作ることができ、ヒット曲を作り出すことができると結論付けた。王道進行に限った話で言えば、それが使われていた曲のほとんどに2サビがあり、当初との予想とは違いが見られた。

(そもそも、この研究はYouTubeのランキングを元に調べたが、基本的にYouTubeは家などの落ち着いた場所でゆっくり見るのが一般的なので、ミュージックビデオをじっくり見たいと思えばイントロや2サビのある少し長い曲が好まれるのは納得できる話ではある。)ただ、現在の音楽はTikTokやInstagramなど流行るきっかけに違いはあれど、日本の音楽の本質的な部分は変わってなく、いい音楽はちゃんと評価され、今の時代はむしろ良曲が埋もれない環境だからこそ、人々の心を動かす曲ができる才能があればヒット曲を作り出すのは難しいことではないと考えた。

4.2 今後の展望

本研究で取り扱えなかった音楽的要素が、まだ沢山ある。それはメロディーであったり、歌詞であったり、リズムであったり、そのそれぞれについて研究すれば傾向が見いだせるはずだ。それに、本研究では、2024年のヒット曲を研究対象とした。時代とは流動的に移ろうもので、たった音楽の傾向など近いうちに変わるだろう。そんな変化を捉えるためにも、こまめに研究をなすべきである。傾向の変化を知るとは即ち、傾向について現在と過去との多角的な知見を得ることで、傾向について知ることは即ち、音楽への理解を深めることだ。社会が歴史とともに膨張するのならば、音楽も相応に裾野を広げなければならない。社会を形成する人間のために、人間に生まれたからには人間のために、音楽を通じて貢献することが、我々には求められている。

6 引用文献・参考文献

“U-フレット.” U-フレット. 2013. Web. 10th/June/2025. <https://www.ufret.jp/>
コード進行に注目した J-POP 音楽の可視化
<http://itolab.is.ocha.ac.jp/%7Eitot/paper/ItotRJPJ39.pdf>/お茶の水女子大